

いのち THEIR LIVES WERE TOO SHORT.

# いのち 生命のメッセージ展

in 上龍門



いのち 生命のメッセージ展が6月15日から18日まで、日本教育学院高等学校（旧田原小学校）で開催されました。幼稚園・学校から280人、上龍門地域157人、他地域285人、4日間で合計722人の来場がありました。



「このお兄ちゃんはお酒を飲んで運転した人にひかれたんですよ。」と説明すると、園児はじっとメッセンジャーを見つめていました。



72名の中学生が来場したときは会場がいっぱいになりましたが、ずっと無言でメッセンジャーと対面していました。



メッセンジャーが語りかける死の現実と生命の重さ。若い人たちの心に深くうったえかけました。



会場に入ると赤い毛糸が手渡されます。「生命を大切に  
する思い」を赤い毛糸にたくして、一本一本つないでいきます。

- 「生命」を「いのち」と読むわけは3つ
- ①生まれる命…赤ちゃんの誕生
  - ②生きる命…今生きていること
  - ③生かす命…亡くなった人がメッセンジャーとなって命の重みをみんなにうたえること



土曜、日曜は親子連れで来場する姿が見られました。「子どもがメッセージ展で見たことをいっぱい話してくれるので、私も行きたくなりました。」と話してくれたお母さんがいました。



児島さんの講演に100名あまりの方がじっと耳を傾けました。

息子は家から100m程の路上で宅配のトラックと正面衝突しました。救命救急で2週間生きようと闘いました。「お母さん、側にいるよ!」と励まし続けました。息子の回復、そして「今日を生かしてください」とずっと祈りました。生命ほど尊いものはない。生命を越すものはないのだと強く思いました。



講演会での手話通訳



一人一人にサルビアの苗が手渡されました。



思いをつなぐ  
～みんなの感想文～



会場に掲示された感想

〇生き続けられる権利のある若者たちが、<sup>りふじん</sup>理不尽な命の奪われ方をされて悔しさを感じました。せめて、残された我々が命の大切さを伝えねばと思いました。(40代 男性)

〇全てを我が子、孫と重ね合わせて考えてしまい、胸が熱くなります。もっと生きたかったらと思うと。今は何をされていたらと思うと……。貴重な時間を与えていただきありがとうございました。(50代 女性)



講師の児島さんを囲んで、まちづくり協議会人権・福祉・環境部会、および人権教育推進協議会の部員さんたち

〇メッセージ展で命について考えさせられました。また、この4日間にこの会場で多くの出会いがありました。たくさんの方が来てくれて本当によかったと思います。

〇上龍門地域の結束を感じました。今後も協力すればいろんなことができると思います。

〇田原小学校がきれいに整備されていてうれしく思うし、これからも活用させてもらえたらいいと思います。